

マツノマダラカミキリ後食予防試験（スクリーニングテスト）

長崎県総合農林試験場 宮 崎 徹
滝 沢 幸 雄

マツノマダラカミキリの後食時に、マツノザイセンチュウが侵入し、マツを枯損させる場合が多いことが判明したので、後食を予防することが必要である。そこで、数種の薬剤について、後食予防に関するスクリーニングテストを行った。

1. 試験方法

(1) 試験地

諫早市貝津町 当場内苗畑のクロマツ
(4～5年生)

(2) 供試薬剤

T-M, T-N, T-O (以上, 井筒屋)
カルロス, スプラサイド, バイジットの各乳剤の0.5%液

(3) 散布期日と散布方法

マツノマダラカミキリの後食期間中に、薬剤散布後0～150日位経過した資料(マツ)が必要なので

- A区……3月24日散布
- B区……4月25日 "
- C区……5月24日 "
- D区……6月20日 "

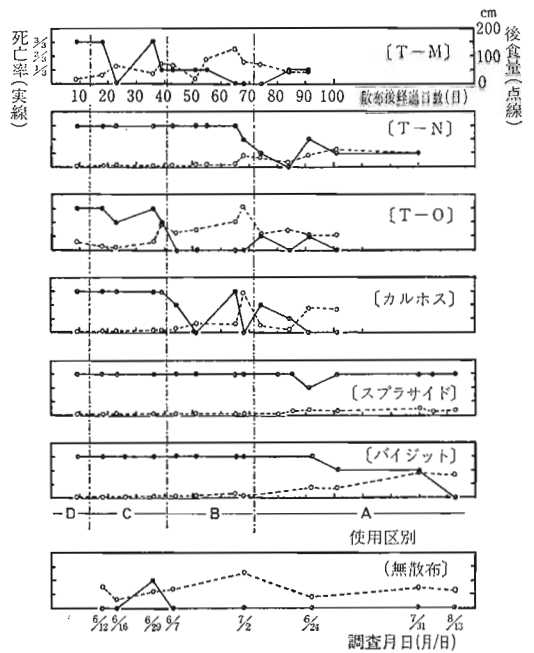
を設定し、散布は背負式噴霧器で樹冠に十分散布した。

(4) 試験内容

薬剤散布後、数日経過ごとにマツノマダラカミキリ(前年の被害木より羽化させた新成虫を一袋3頭)を袋の中に放飼して、3日間後食させた。そして放飼(接種)後3日後の死亡頭数と後食量を調べた。

2. 試験結果と考察

散布後日数が経過すると、薬剤の分解も進むし、枝の伸長にともない薬剤のかかっている部分も多くなる。枝の伸長部への薬剤の移行の可能性は考えられる



図一 薬剤散布後の経過日数と死亡率および後食量の関係

ことであるが、やはり、経過とともに、殺虫率は低く、後食量は多くなる傾向は明らかである。

各薬剤ごとの結果は、無散布の対照とともに図示したが、後食予防効果は

T-M, T-O は低く実用的な効果は期待できない。T-Nで散布後60日位、カルロスで40日、一番長いスプラサイドが80日(死亡率は高いが後食量において80日を過ぎるとやや多くなっている)、バイジットが70日位と推察される。